

第3学年 総合的な学習の時間学習指導案

対象：第3学年2組23名

授業者：鈴木 由美子

1 単元名 「デフリンピックをおうえんしよう」

2 単元目標

デフアスリートとの交流を通して、デフアスリートの思いや願いを知り、共に生きるために自分たちができることを考え、実践することができるようにする。

3 単元の評価規準

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	ア 課題解決のために、インターネットやインタビューなどの中から適切な方法を選んで調べたり、必要な情報を整理・工夫してまとめたりしている。	ア 聴覚障がい者やデフリンピックについて、学習課題や学習計画を考え表現している。 イ 調べたことを校内に伝えるための表現方法を考え、適切に表現している。	ア 聴覚障がい者やデフリンピックについて関心をもち、学習を振り返ったり見直したりして、学習課題を追求・解決しようとしている。 イ デフアスリートとの関わりを深め、共生していくために自分ができることを考え実践しようとしている。

4 単元について

(1) 指導内容

本校では「きこえ・ことばの教室」設置校としての特色を生かし、継続してデフアスリートとの交流を行っている。今年度は、来年度東京都で開催される「デフリンピック」に焦点を当て、「2025年のデフリンピックを盛り上げるために、君たちに協力してもらいたい。」というデフアスリートからの呼びかけに応える活動を通して、社会を構成する様々な人々と共生し、その中で自分たちができることを考え、実践していくとする意欲を高め、実践する態度を養いたいと考える。

(2) 創造的な資質・能力の素地を重点的に育成する単元として設定した理由

本単元は、これまで、毎年、継続して交流を行っているデフアスリートから「デフリンピックを盛り上げるために協力してほしい」という形で投げかけられたものの中から解決すべき課題を見付け、解決し、その成果を全校に発信して「学校一体となってデフリンピックを応援しよう」と呼びかける活動である。来年、東京都で開催されるというタイムリーな内容と、これまで3年間交流してきた親しみのあるデフアスリートということで、児童は、課題解決への必要感や意欲を高め、課題解決の方法や、発信するための表現方法を模索し、主体的に活動することができると考え、この単元を設定した。

(3) キャリア教育とのつながりについて

多様な他者（デフアスリート）の考えや立場を理解し、相手の意見を聞いて自分の考えを正確に伝えることができるとともに、自分の置かれている状況を受け止め、役割を果たしつつ他者と共同して社会に参画し、今後の社会を積極的に形成することができる「人間関係形成・社会形成能力」を育むものとする。

（４）カリキュラム・マネジメントについて

- ・国語科「仕事の工夫見つけたよ」では、調べたことについて、組み立てを考えて報告する文を書き、お互いに読み合って感想を伝え合う。それを生かし、調べ学習やインタビューで分かったことを整理し、報告する文を書いたり、互いに聞き合ってよりよいものにするためにアドバイスをし合ったりする活動を行う。
- ・学校行事「未来づくりフェスティバル」、学級活動（１）での話し合い活動や集会活動の経験を基に、今回の活動の計画、準備を行い、全校に向けての発表を行う。

５ 児童の実態

これまで総合的な学習の時間に取り組んだ「北嵯谷クリーン・グリーン大作戦」「いろいろな仕事・働く人たち」の学習を通して、身近なところから課題を見付け、解決していく学習を経験してきた。実生活の中から生まれた課題であったため、解決策も自分たちの生活の中から見いだすことができ、自分たちの中での発信・共有となった。今回は、自分たちとは違う立場や社会的なイベントについての関わり方を考えていくため、より広く情報収集をする力を身に付けていけるようにする。また、全校に向けて呼びかけるために必要なプレゼンテーションの能力も身に付けさせたい。

また、第１時で行うデフアスリートとの交流においては、まだ、「お客様をお迎えしている」という意識が強いと思われるが、一歩進んで「同じ社会の一員であり、お互いができることによって対等に関わり、共生していく」という意識と実践力を身に付けさせる。

６ 指導の手だて

（１）創造的な資質・能力の素地を育成するための視点

これまでに交流を重ねてきたデフアスリートからの呼びかけに応え、その成果を全校に発信して「学校全体でデフリンピックを盛り上げる」活動を通して、実社会で活躍する人などとの対話を大切にし、問題の発見・解決に資する情報収集にすすんで関わろうとする態度を身に付ける。

（２）キャリア教育の４つの能力を育成するために

交流のあるデフアスリート自身から障がい者の現状や思い、願いを聞く活動を通し、障がいのある・なしに関わらず、よりよい生き方を見付け努力することの大切さに気付かせるとともに、自分たちにできる役割を考え実践しようとする態度を身に付けることによって、「人間関係形成・社会形成能力」の育成につなげる。

（３）ICT等の活用

インターネットを利用して調べたり、プレゼンテーションソフトを活用して調べたことを校内で発表したりすることで、目的に応じた ICT 機器の利用方法を理解するとともに操作の技術の向上を図るようにする。

7 指導計画

時	○主な学習活動 ★指導上の留意点	◆評価規準【観点】(評価方法)
1	○デフアスリートと交流会を開く。 ★交流会の中で「デフアスリートの現状や願い・デフリンピックへの思い」を聞くことで、課題設定・解決への必要感・意欲を高めることができるようにする。	◆デフアスリートやデフリンピックについて関心を持ち、学習を振り返ったり見直したりして、学習課題を追究・解決しようとしている。 【主】ア(学習カード)
2	○学習計画を立てる。 ★「全校児童への発信」をゴールに設定することで、必要な活動を考え学習計画を立てていく。	◆デフアスリートやデフリンピックについて、学習課題や学習計画を考え表現している。 【思】ア(学習カード)
3 8	○デフリンピックについて調べ、調べたことを発表するための準備を行う。 ★自分たちの思いやアイデアを表現する手段を増やすために、発表のためのプレゼンテーションソフト活用の技能を身に付けさせる。 ★きこえ・ことばの教室との連携を図る。 ★公式パンフレットなどの資料を収集しておく。 ★ICT 支援員との連携を図る。	◆課題解決のために、インターネットやインタビューなどの中から適切な方法を選んで調べたり、必要な情報を整理・工夫してまとめたりしている。 【知】ア(学習カード) ◆調べたことを校内に伝えるための表現方法を考え、適切に表現している。 【思】イ(成果物)
9 本 時	○全校集会での発表に向けてよりよい発表にするためのプレ発表会を行う。 ★各グループの発表形態・内容に応じて視聴の視点を示した感想カードを用意することで、的確で具体的なアドバイスができるようにする。	◆見る側の視点に立ち、発表のよい点や改善点を見付け、伝えている。 【思】イ(学習カードの内容、発表、話合いの観察)
10 11	○前時のアドバイスを基に発表に向けての準備を行う。	◆アドバイスを生かし、よりよい表現方法を考え、適切に表現している。 【思】イ(学習カード・成果物)
12	○全校集会で発表する。 ★運営委員会と連携を図り、次年度の全校での取り組みへとつなげていく。	◆デフアスリートとの関わりを深め、共生していくために自分ができることを考え実践しようとしている。 【主】イ(発表)

8 本時の指導（全12時間中の第9時）

（1）目標

観客として発表を聞き、発表のよい点や改善点を見付け、具体的な解決策を考えて発表者に伝えることができる。

（2）展開

	○主な学習活動 ・予想される児童の反応	◆評価規準【観点】（評価方法） ★指導上の留意点
導入	○本時のめあてを確認する。 ・よりよい発表にするために友達の意見を聞きたい。	★よりよい発表にするためにはどうしたらよいかと投げかけることで、意見交換を行うという本時のめあてを確認する。
	全校発表をよりよいものにするために、アドバイスをし合おう。	
展開	○グループごとに発表する。 【考えられる発表】 発表形態…ポスター、チラシ、新聞、プレゼンテーションソフトを使った朝会や放送での発表 発表内容…「デフリンピックとは」 「どんな競技があるのか」 「デフアスリートを応援するため自分たちにできること」 など ○発表を聞き、良かった点や改善点をオクリンクプラスで発表者に伝える。 ・もう少し詳しい方が分かりやすい。 ・写真や絵があると分かりやすい。 ・聞く人を見て話すとよい。 ○アドバイスカードを基に、各グループで改善点について話し合う。 ・分かりやすい写真や絵を探そう。 ・もっとゆっくり話す練習をしよう。	★時間内に全グループが発表できるようにタイムキープを行う。 ★あらかじめ各グループの発表形態・内容に応じて視聴の視点を示したアドバイスカードを用意しておくことで、的確で具体的なアドバイスができるようにする。 視聴の視点…「内容の伝わりやすさ」「もっと詳しく調べた方がよいこと」「声の大きさ」「話す速さ」「説明（言葉）の分かりやすさ」「画面や絵の見やすさ、分かりやすさ」「話す態度」「質問」など ★オクリンクプラスでアドバイスカードを作成し、発表者に提出できるようにする。 ★各グループの発表毎にアドバイスカード作成の時間を取る。 ◆見る側の視点到立ち、発表のよい点や改善点を見付け、伝えている。 【思】イ（学習カードの内容・発表、話合いの観察）
振り返り	○各グループの進捗を確認し次の時間に取り組むことを確認する。 ○めあてを達成するために努力した点や工夫した点、次回に生かしたいことを振り返る。	★アドバイスを基に改善点を考えているグループを取り上げ、よりよい改善の在り方を共有する。